

伊吹山 山行報告書

目的の山名	伊吹山(標高:1377m 滋賀県)	報告者	島本 敏郎
日程	2021/6/21(雲り晴)	参加者	山本 南, 山本 積, 久末芳正, 米田郷彦 溝尻 浩, 塩見泰男, 永田徳之, 藤田憲次郎 有島講次, 竹村多恵, 島本敏郎, 島本景子 合計 12名

コースタイム

伊吹山登山口(7:53)→一合目(8:24/8:31)→三合目(9:22/9:29)→五合目(9:48)→七合目(10:29)→八合目(10:47)→伊吹山山頂(11:13/12:00)→三合目(13:21/13:55)→伊吹山登山口(14:51)

登山日: 梅雨時の不安定な天候が続く中、薄曇り、晴間の見える登山日和となり、山本みなみさんの気象分析精度の高さを再認識しました。

参加者: 愛知、岐阜、滋賀、京都からそれぞれ伊吹山登山口に集合し登山を開始した。山本稔さんが体調不良のため不参加となった。それに代わりMMC岡崎山岳部の竹村さんが飛び入りの初参加となった。

登山ルート: 一合目から八合目まで標識があり歩行ペースが把握でき歩きやすかったが、一合目～三合目までの間隔が長く 疲れの溜まっている下山時には長く感じた。

登山者: 緊急事態宣言が解除されたこともあったのか、ウィークデイながら多くの登山者がルート上におられ、山頂では観光客を含め多くの人が行き交っていた。

登山の概要: 8時前に登山口で集合写真を撮影後登山を開始した。登山口からいつものように山本積さんを先頭にそれに連なって歩行。一合目までは樹林帯の中のルートであり軽快に歩を進めることができた。一合目にある伊吹高原荘以降は樹林帯を抜け日陰のない登山道となったが、薄曇りであったのであまり汗をかくことなく歩を進めることができた。

二合目以降は見晴らしがよくなり、足元の高山植物、近江平野、伊吹山の山容を眺めながらの登山となりテンションが上がった。途中女性登山者に伊吹山を背景に全員の集合写真を撮ってもらった。三合目には立派なトイレがあり日陰もあったのでここで休憩。ここから五合目までは旧スキー場のゲレンデであり、なだらかに広がった草原の中のルートを歩行。

五合目には休憩のためのベンチと自販機が設置されていた。(コストは平地の約2倍)

六合目からはジグザクの道となり、またルート上に石が多くなり足の置き場を考えながらの登高となった。勾配も徐々に急になってきたので休憩をはさみながら進んだ。また眼下の草原、琵琶湖を眺めながらの歩行となり気を紛らわすことができたし涼風の吹き上げもあり さほど汗をかくことなく歩けた。八合目過ぎで竹村さんが夕方からの勤務のために登頂せずに下山された。

八合目あたりから小休憩を入れなかったこともあり、隊列が長くなり、山頂到達に時間差ができた。

山頂には11時過ぎに到着。全員が到着するのを待って、ヤマトタケル像の前で記念撮影を実施。その後昼食を摂ったが、涼風が吹き上げ、かつ視界が開けており快適な時間を過ごした。なお、山頂には山小屋、売店、伊吹山の祠等が雑然と散在していた。山頂からの眺望は良好で鈴鹿山系の山並、遠方には白山、御岳も眺めることができた。12時に下山を開始し、往路を戻ったが眼下の街並、琵琶湖を眺めながらの下山となり、快適に歩を



伊吹山登山口



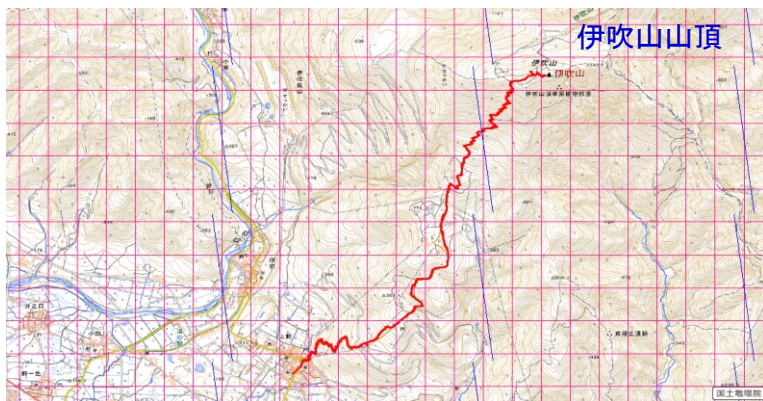
二合目(伊吹山をバックに)

進め五合目には13時頃に到着した。ここで米田さんが下山開始早々に太ももがつったので遅れるとの情報が、久末さんからあり山本積さん、有島さんが救護に向かわれた。残りの部隊は下山を進め三合目で待機していたが、下山時間が遅れるとのことでここで解散となり、残りの部隊はそのまま下山を続け15時前に登山口に到着した。

なお、米田さん一行は約40分ほど遅れて無事駐車場に戻ってこられた。



六合目以降の登り



登山口
登山ルート



伊吹山山頂からの景観